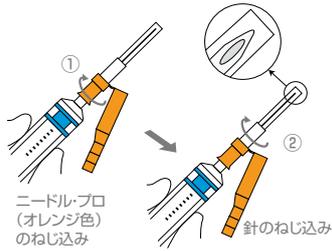


プロ・ベントプラス (針付きタイプ)

1

- ① ニードル・プロ (オレンジ色の針プロテクタ) をシリンジにしっかりとねじ込む。
- ② ニードル・プロが穿刺の邪魔にならないように、針の刃面を調整しながら、針をニードル・プロにしっかりとねじ込む。



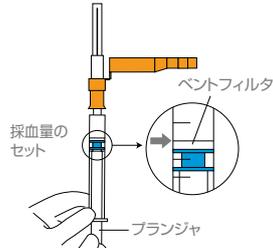
ニードル・プロ (オレンジ色) のねじ込み

針のねじ込み

2

- ① 必要な採血量に合わせて、プランジャの先端をシリンジの目盛にセットする。

\* 動脈圧が低い場合は少な目の目盛にセットする。

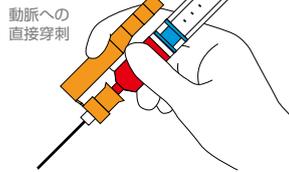


3

- ① 穿刺部位を消毒後、針キャップを外して、適切な角度で動脈穿刺を行う。
- ② 動脈圧によって血液がシリンジ内に流入し、プランジャ先端のベントフィルタの位置まで血液が満たされたところで採血が完了する。
- ③ 穿刺部位を 3～10 分圧迫止血をする。

注意：

・採血中は、採血した血液が体内に戻らないよう、プランジャを押さないよう十分に注意すること。

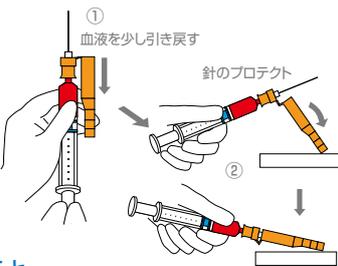


4

- ① 針先端からの血液飛散をさけるため、シリンジ内に空気が入らない程度にプランジャを引き戻す。
- ② 平らな場所を利用して、片手で針をニードル・プロ内に収める。

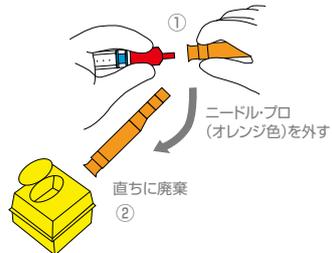
注意：

・針が曲がってしまった場合は、針をニードル・プロに収納しないこと。  
・指や掌で針をニードル・プロに収納しないこと。



5

- ① 針がニードル・プロの溝に収納されていることを確認し、針の先端部分に触れないようにニードル・プロのハブ部分を持って、シリンジから取り外す。
- ② 取り外したニードル・プロは直ちに耐貫通性廃棄容器に捨てる。

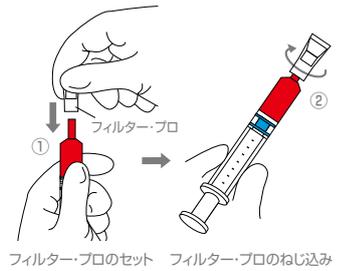


6

- ① シリンジのルアーにフィルター・プロを装着させる。
- ② フィルター・プロをシリンジにしっかりとねじ込む。

注意：

・フィルター・プロは血液に接触するとシールされて空気が抜けなくなるため、プランジャを押した際、フィルター・プロに血液が付かないように注意すること。

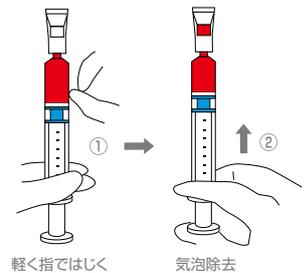


7

- ① シリンジを上に向け、指ではじいて気泡をシリンジ先端に移動させる。
- ② プランジャをゆっくりと押し進め、フィルター・プロの内部が血液で満たされたら、プランジャを押すのを止める。

注意：

・フィルター・プロが血液に触れた後はプランジャを押し進めることができないので、強く押さないこと。  
(強く押しすぎるとフィルター・プロが外れることがある。)

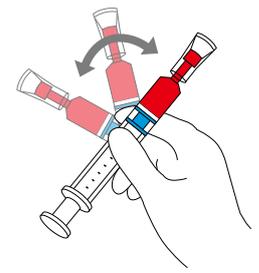


8

- ① シリンジを 20～30 秒間上下に転倒、およびきり揉み回転させ、ヘパリンと血液を十分に混和させる。
- ② 測定は採血後速やかに行う。
- ③ 他の場所へ搬送する場合は、シリンジに患者ラベルを貼付し、フィルター・プロがついている状態で運ぶ。

注意：

・検査結果に影響するため、血液混和は必ず気泡を取り除いた後に行うこと。  
・シリンジ先端部分はヘパリン混和が困難なため、血液が凝固し易くなっている。血液を分析装置に導入する前に、シリンジ先端部分の血液を少量捨てること。  
・凝固した血液は分析装置の故障の原因になるため、分析装置にかける前に血液が凝固していないかを確認すること。



販売名:動脈血採血キット  
承認番号:20500BZY00828000

改良のため仕様は予告なく変更させていただく場合がありますのでご了承ください。  
ご使用前に、添付文書、取扱説明書など、製品付随資料を必ずお読みください。

製造販売業者

スミスメディカル・ジャパン株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-1-1

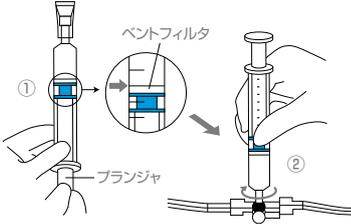
お問い合わせ先：0120-582-855 受注センター

MKEECA-0123

smiths medical

プロ・ベントプラス (針なしタイプ)  
[自動吸引採血]

1



① 必要な採血量に合わせて、プランジャの先端をシリンジの目盛にセットする。\*動脈圧が低い場合は少な目の目盛にセットする。

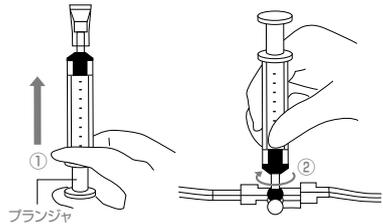
② 活栓を消毒後、フィルター・プロを外して、シリンジを活栓にねじ込む。

注意：  
・事前に A ラインがしっかりと固定され、ライン内にクロットがないことを確認すること。また、採血はライン内の生理食塩液を完全に取り除いた後に行うこと。



ラインドロープラス  
[手動吸引採血]

1

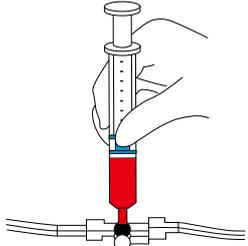


① プランジャを最後まで押した状態にする。

② 活栓を消毒後、フィルター・プロを外して、シリンジを活栓にねじ込む。

注意：  
・事前に A ラインがしっかりと固定され、ライン内にクロットがないことを確認すること。また、採血はライン内の生理食塩液を完全に取り除いた後に行うこと。

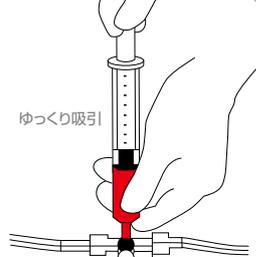
2



① 活栓をオープンにすると同時に動脈圧によって血液がシリンジ内に流入し、プランジャ先端のベントフィルタの位置まで血液が満たされたところで採血が完了する。

注意：  
・採血中は、採血した血液が体内に戻らないよう、プランジャを押さないよう十分に注意すること。

2



① 活栓をオープンにし、ゆっくりとプランジャを引き、血液を採取する。

注意：  
・採血中は、採血した血液が体内に戻らないよう、プランジャを押さないよう十分に注意すること。  
・吸引が速いと気泡の混入や溶血を引き起こすことがあるので、ゆっくりと吸引すること。

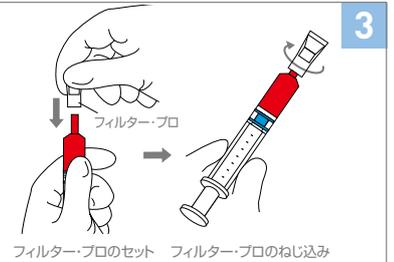
3

① 活栓を閉め、シリンジを活栓から外す。

② シリンジのルアーにフィルター・プロを装着させる。

③ フィルター・プロをシリンジにしっかりとねじ込む。

注意：  
・フィルター・プロは血液に接触するとシールされて空気が抜けなくなるため、プランジャを押した際、フィルター・プロに血液が付かないよう注意すること。

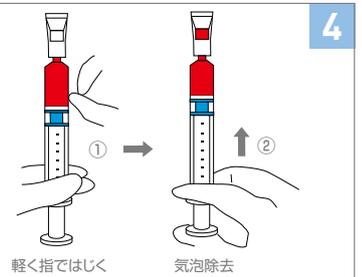


4

① シリンジを上に向け、指ではじいて気泡をシリンジ先端に移動させる。

② プランジャをゆっくりと押し進め、フィルター・プロの内部が血液で満たされたら、プランジャを押すのを止める。

注意：  
・吸引による採血ではシリンジ先端の死腔部分に必ず空気が混入するので、速やかに空気を除去する必要がある。  
・フィルター・プロが血液に触れた後はプランジャを押し進めることができないので、強く押さないこと。(強く押しすぎるとフィルター・プロが外れることがある。)



5

① シリンジを 20 ~ 30 秒間上下に転倒およびきり揉み回転させ、ヘパリンと血液を十分に混和させる。

② 測定は採血後速やかに行う。

③ 他の場所へ搬送する場合は、シリンジに患者ラベルを貼付し、フィルター・プロがついている状態で運ぶ。

注意：  
・検査結果に影響するため、血液混和は必ず気泡を取り除いた後に行うこと。  
・シリンジ先端部分はヘパリン混和が困難なため、血液が凝固し易くなっている。血液を分析装置に導入する前に、シリンジ先端部分の血液を少量捨てること。  
・凝固した血液は分析装置の故障の原因になるため、分析装置にかける前に血液が凝固していないかを確認すること。

